コロナウイルス感染に関わる医療介護現場についての要求・質問書

全国労組交流センター医療福祉部会

厚生労働省
大臣 加藤 勝信 様

１）検査体制の抜本的拡充

●保健所の民営化をやめ、専任の医師が所長となり、行政権も有していた保健所に戻すこと。保健所の数も元に戻し、労働者を正規で雇用すること。
●自家用車内での検体採取（ドライブスルー方式）やアクリル板越しの検体採取方式を認めるだけでなく、厚労省の責任で早急に推進すること。

２）医療現場への医療物資の集中

●厚生労働省は、全国に出回っているマスクの数を把握しているのかどうか。
●市場に出回っているマスク・防護具・消毒液などの医療物資を、国の責任においてコロナ感染者を受け入れている病院に投入すること。
●自衛隊・警察が所有するＮ９５マスクなどについても、医療現場に供給すること。

３）労働者の安全確保について

●コロナウイルスに罹患した患者の治療にあたる医療介護従事者への危険手当を公的資金で大幅増額すること。
●帰宅せず、ホテルなどに宿泊している看護師に対して宿泊費を補助すること。
●妊娠中の看護職員の休業に伴う代替要員を確保すること。
●すべての病院・医療機関の職員にＰＣＲ検査を優先的に実施すること。

４）介護事業所に関して

●介護施設（特養・デイサービスなど）が休業ないし利用者を配慮して「自粛」した場合、休業補償を行うこと。

５）精神医療現場に関して

全国で公立の精神科医療施設は極少なく、しかも精神科には陰圧の病室や感染症対応の医師が不在であると考える。
●精神障害者が陽性となった場合の入院―治療方針について、厚生労働省ではどのような方針になっているか。
●精神疾患をもつ感染者を受け入れられる病院・病床はどれだけあるか。
●対応可能な病床数を超える感染者が出た場合、どのような対策があるか。

６）公的医療破壊をやめること

●都立病院の独立行政法人化を撤回すること。公社病院を都立に戻すこと。
●公立公的４２４病院の再編・統合計画を撤回すること。

以上

小池都知事は 都立病院の独法化（民営化） 方針を撤回しろ！

動画（9分）
←こちらから Youtubeで観れます。

コロナパンデミック下で、日本で 100 周年目のメーデーが行われました。私たちは、医療を崩壊させ命と生活を破滅に追いやる安倍政権への怒りの「生きさせろ！５・１メーデー」として、厚生労働省前と首相官邸前に４００人が集まり、要請と抗議行動をたたかいました。

医療･介護･福祉労働者が先頭に立ち､｢病院･介護施設にマスク･防護服を寄こせ！｣｢100%の休業補償を行え！｣のシュプレヒコールが、霞が関一帯に響きわたりました。

「私たち労働者自身の命を守ることなしには、利用者さんの命と生活も守れない。医療・介護・福祉労働者は絶対に死んではならない！」この叫びは、コロナとの最前線でたたかう全世界の医療労働者の共通のスローガンです。

政府は「医療従事者に感謝を」と言いますが、実際には感染症指定病院にすらＮ 95 マスクも防護具も足りていません。「私たちは捨て駒にされている」とコロナ病床の看護師たちが悲痛な声をあげています。必要な物資と危険手当を直ちに！

なによりも、安倍政権は公立・公的病院の削減を、小池都知事は都立病院の独立行政法人化（民営化）方針を、このコロナ感染状況下の３月に進める決定をしています。絶対に許せません。

厚生労働省に要請した「医療・検査の拡充」「医療労働者の安全と補償」を実現するのはこれからです！

一緒につながり、行動していきましょう。

2020 生きさせろ！メーデー実行委員会　@ikisaseromay　https://note.com/ikisaseromay
発行連絡先：東京労組交流センター医療福祉部会　台東区元浅草２丁目４－１０ 五宝堂ビル５階
電話 03-6914-0487　FAX 03-5933-2347　E-mail: iryouhukusibukai@yahoo.co.jp